

本院主催のさまざまな研修会などが開催されました。このたのびは開催報告特集です！！

「第12回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための 研究会議」開催報告

診療支援部 歯科衛生士 川越 麻衣子

2021年10月24日（日）岡山国際交流センターにて、第12回中国四国地方HIV陽性者の歯科診療体制構築のための研究会議が開催され、広島大学病院 輸血部長・エイズ医療対策室長 藤井輝久先生の開会のご挨拶から始まりました。中国・四国地方23施設より、23名が参加されました（うち1名はリモート形式）。



〈研修プログラム〉

【開会の挨拶】

藤井輝久先生

（広島大学病院 輸血部長・エイズ医療対策室長）

【講演1: HIV感染症の最近の話題

～特にCOVID-19との関連について～】

講師: 白野倫徳先生

（大阪市立総合医療センター 感染症内科副部長）

【講演2: 歯科への期待のメッセージ】

講師: 橋本則久先生（大阪HIV薬害訴訟原告団 理事）

【会議 話題提供: 歯科医療体制についての活動報告】

（1）鳥取県における歯科診療体制構築についての活動報告

講師: 大森智弘先生（鳥取県歯科医師会 理事）

（2）HIV陽性者の歯科診療体制構築のための山口県歯科医師会の取組み

講師: 山中友之先生（山口県歯科医師会 理事）

（3）広島県HIV歯科診療ネットワーク室の構築からこれまでの活動状況について

講師: 米田哲也先生（広島県歯科医師会 常任委員）

【会議議題: 中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について】

司会: 柴秀樹先生（広島大学病院 主席副病院長）

【閉会の挨拶】

柴秀樹先生（広島大学病院 主席副病院長）

【講演1】

「HIV感染症の最近の話題

～特にCOVID-19との関連について～」

HIV陽性者のCOVID-19治療や重症化のリスクについて根拠を示しながら解説して頂きました。私が特に印象的だったのは、COVID-19がHIV陽性者の方に及ぼした影響についての事例です。COVID-19が人々の生活習慣に大きな影響を及ぼしたことは周知の事実ですが、HIV陽性者の患者さんが転院を余儀なくされたケースや、海外との交流が停止したことで治療継続が困難になったケースなどを知り、想像以上に深刻な問題が発生していたことを知ることができました。

【講演2】

「歯科への期待のメッセージ」

この講演では、血友病、HIVの治療の変遷を学び、現在の治療が昔と比べてどれほど進歩しているのか、非常にわかりやすく解説して頂きました。また、血友病患者さんに関節への症状が出現することは学んでいましたが、それがどれほど痛く、日常生活にどのような影響を及ぼすのか、患者さんご自身の生の声を聞いたことが印象的でした。



【話題提供】

「歯科医療体制構築についての活動報告」

鳥取県、山口県、広島県における活動報告を受け、どの地域でも話し合いを重ね、歯科医療者側の意見も十分に聴取しながら診療体制を構築していることを知りました。

運用していく中で、問題が発生するケースもあることから、関連する機関の緊密な連携の必要性を改めて実感しました。

【会議議題】

「中国四国ブロックにおけるHIV陽性者の歯科医療体制構築について」

今回の会議では、新たに歯科診療体制の構築を予定している山口県の報告や、これからの構築を検討している地域の意見など、前向きなご意見が多かったことが印象的でした。

しかしながら、この会議で直接意見交換を行っている参加者の理解度は高まっている一方で、地域には、いまだに不安を抱えている医療者が多くいることも現状です。

国際的な大規模研究に裏付けられた、

『U=U (Undetectable=Untransmittable)』という言葉は、適切に治療を受け、血中のHIV量が検出限界以下の状態だと感染しないことを表しています。この言葉を多くの医療者が正しく理解することが、より充実した歯科診療体制の構築につながると改めて感じました。医療者に対しての啓蒙活動、さらなる正しい理解の徹底や教育を継続する必要性について改めて実感すると共に、患者のニーズに応えられるよう、私自身が常に新しい知識・技術を習得し、研鑽に励みたいと感じました。

「HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修」開催報告



薬剤部 薬剤師 石井 聡一郎

【研修プログラム】

2021年10月18日（月）と10月19日（火）にHIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修を開催しました。今回は病院と保険薬局からそれぞれ1名ずつの計2名の先生に参加いただきました。昨年は新型コロナウイルス感染症の流行状況の影響で開催できませんでしたが、緊急事態宣言も解除され感染対策を講じた上で開催としました。

症例検討では、今回参加いただいた2名の先生に相談したい症例をお持ちいただき、当院スタッフとともにディスカッションを行いました。他院や保険薬局での取り組みなどについてもお話しいただき、研修を開催する立場ではありましたが非常に勉強になりました。病院と保険薬局との連携の重要性について認識でき、情報共有の方法等について、改めて検討していく必要があると感じました。

参加された先生方からは、他職種の活動や内容を学ぶことができたことや、ロールプレイや症例検討について特にご評価いただきました。

今後も引き続き研修内容の充実を図っていきます。経験が浅くても問題ありませんので、病院及び保険薬局の薬剤師の先生方には、ぜひご参加いただければと思います。

時間	10/18(月)	10/19(火)
8:15	集合(薬剤部→カンファレンスルーム201に移動)	集合(カンファレンスルーム101)
8:30	(8:30~9:30) 講義 1 血友病 医師:山崎尚也	(8:30~11:00) 服薬援助のための コミュニケーションスキルの習得 臨床心理士:喜花伸子、杉本悠貴恵 場所:エイズ医療対策室 相談室
9:00	(9:30~12:00) 講義 2 HIV感染症の疫学/医療体制 講義 3 性感染症・肝炎とHIV感染症 医師:山崎尚也	(11:00~12:00) 講義 8 HIV感染症における薬剤師の役割② 薬剤師:藤井健司・石井聡一郎・大東敏和
10:00	11:00	12:00
12:00	昼休憩	昼休憩
13:00	(13:00~14:30) 講義 4 HIV感染症におけるチーム医療について 看護師:後藤志保 臨床心理士:杉本悠貴恵 MSW:大成杏子	(13:00~16:30) 症例検討 医師:藤井輝久、山崎尚也、井上暢子 薬剤師:藤井健司・石井聡一郎・大東敏和 看護師:後藤志保 臨床心理士:喜花伸子、杉本悠貴恵 MSW:重信英子、大成杏子 場所:診療棟5階 カンファレンスルーム1
14:00	(14:30~15:30) 講義 5 HIV感染症における薬剤師の役割① 薬剤師:藤井健司・石井聡一郎・大東敏和	(16:45~17:15) 見学 HIV感染症ケアチームカンファレンス
15:00	(15:30~17:30) 講義6・7 抗HIV療法と新薬の情報 合併症と長期療養 医師:藤井輝久	(17:15~17:30) 研修報告会
16:00	17:00	



「第17回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ ネットワーク会議、研修会」 開催報告



エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 大成杏子

中四国のソーシャルワーカー（以下SW）を対象に「第17回HIV/AIDSソーシャルワーカー・ネットワーク会議、研修会」を10/16（土）に開催しました。コロナ禍のため昨年に引き続きオンラインでしたが、42名参加されました。お忙しい中ほぼ一日、パソコンと向き合いながらご参加頂いた皆様には心から感謝申し上げます。

ネットワーク会議では、中四国ブロック内のHIV感染症患者の状況を共有し、血友病薬害被害患者支援の内容を確認しました。今は患者が通院していない拠点病院においても、制度のあらましを理解し、通院先となった時に備えておくことはとても大切です。いざ患者がやってきた時に、本会で得た知識や繋がりをフル活用して支援に臨んでいただきたいと強く願います。啓発活動に工夫している医療機関もあり、院内の男性お手洗いにHIV検査啓発のカードを設置したという話題もありました。

昨今続けて議題に挙げている長期療養のテーマはとても深く、HIV感染症患者の転院・介護福祉サービス利用の調整において受け入れに難渋した経験のあるSWもいます。受け入れ側の施設種別、地域によっても異なる為、SWの経験を共有し、課題克服を皆で目指すことに本会の意義があります。

研修会では、藤井先生、大阪HIV薬害訴訟原告団森戸理事のご講義に続き、千葉大学 医学部附属病院でSWとして活躍中の葛田衣重先生にご講義頂き、それを受ける形でグループワークをしました。

ネットワーク構築に向けたソーシャルワークについて葛田先生の講演から、ネットワーク形成や活用こそがSWの強みであることを確信しました。既存の資源、ネットワークをいかに活用してアレンジできるかがSWのポイントといえます。

最終的には、各参加者がSWとして自らの行動宣言を宣誓し締めました。

私は事務局として会の運営に努めましたが、先生方のご講義、グループワークを受けて「身近なところからつながる！発信する！」とここに行動宣言します。



「令和3年度中国・四国ブロックエイズ治療ブロック/ 中核拠点病院等看護担当者会議」開催報告



昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面での開催となったネットワーク会議ですが、今年度は初のオンラインで2021年10月30日に開催しました。中国・四国ブロック/中核拠点病院の全14施設、28名の参加がありました。本会議は、持ち回りで担当しており、今年度は、主担当：広島市民病院、副担当：山口大学医学部附属病院でした。

会議の内容は本院 藤井先生および看護部 獅子田副看護師長からの講義に加え、今年は各施設が抱える問題点や共有したいことをカテゴリ別にまとめ、テーマごとに参加者全員で意見交換をしました。

エイズ医療対策室 看護師 後藤志保

会議終了後の参加者からのアンケートでは、「オンライン会議であっても内容が多岐にわたっていて勉強になった」「対面での意見交換が望ましいと思うが、移動などの事を考えるとWeb開催が良いと思う」などオンライン会議に対する前向きな意見が聞かれました。

また、「コロナ禍における患者さんとの関わりかたで、同じように困難を抱えている現状を共有し、関わり方のヒントを得ることが出来、有意義な時間が持てました」など、参加者全員での意見交換・情報共有は有意義であったと多くの感想をいただきました。

来年度は主担当：山口大学医学部附属病院、副担当：高知大学医学部附属病院です。新型コロナウイルスの感染状況の懸念は残りますが、より有意義な会議となるよう主担当および副担当施設の方と検討して参りたいと思います！！

「第35回日本エイズ学会学術集会・総会」参加報告



COVID-19の影響で昨年はWEB開催となった本学会ですが、今年は東京のグランドプリンスホテル高輪での現地参加に加えWEB参加も可能なハイブリッド形式の開催でした。ちょうどCOVID-19も落ち着いていたため、私は現地初参加させていただきました！例年と比較するとやはり参加人数も少なく規模も縮小されていたようです。このたび私はポスター発表をしました。一般演題の発表はすべてWEBのみのため、他施設の参加者の方から直接生のご意見をいただける機会がなく、少し物足りなさを感じました。早く現地開催ができる環境になり、他施設のさまざまの方と交流できる機会があればいいなあとしみじみ感じました。来年のエイズ学会は浜松！また頑張って発表できればと思っております。

エイズ医療対策室 看護師 後藤志保



人はまばら。。密ではなかったです！



展示は2つのみでした。例年と比較し少ないようです。